



岡山 史料ネット Newsletter Vol. 7 2022. 3

富岡家屏風絵

活動報告 (2021 年 9 月～2022 年 2 月)

1. 西日本豪雨被災資料修復・整理作業

2018 年の西日本豪雨により被災した歴史資料の修復・整理作業について、ひろくボランティアを募る形で実施することができていませんが、2021 年 12 月 1 日、2022 年 1 月 19 日に岡山大学日本史研究室学生有志により、土師家文書の修復作業を行いました。今後も、岡山大学活動制限指針をにらみながら、少しずつでも作業を継続できればと考えています。

2. 倉敷市の地域防災計画修正案に意見を提出

2021 年 11 月に倉敷市が地域防災計画の修正案についてパブリックコメントを実施しました。地域防災計画とは、災害基本法にもとづき各自治体が策定するもので、災害発生前・発生段階・発生後のそれぞれの段階で行政がどのような取り組みを行うかについて記したもので、しばしば修正されるようです。

今回の修正案では災害発生前の取り組みについて記した「災害予防計画」の部分に、「市は、県や民間団体（大学・県・建築士会）とともに形成している岡山県文化財等救済ネットワークについ

て、災害時の連携強化を推進する」という文言が追加されました。これを踏まえて、岡山史料ネットとして、「ここでうたわれた連携強化をふまえ、災害時における行政文書や未指定文化財などさまざまな地域歴史文化遺産レスキューのための実施体制が整備されることを期待します。」という意見を 12 月に提出しました。

当会を含む 5 名からの意見に対する倉敷市の考え方は「「倉敷市地域防災計画（修正案）」のパブリックコメント集約結果」*として、2022 年 1 月に公表されています。ここでは、県のネットワークとは平時から連携すること、行政文書については歴史資料整備室が保全を行うこと、復興において歴史や文化に配慮することが必要と考えていること、などが述べられています。

*倉敷市危機管理課作成 https://www.city.kurashiki.okayama.jp/secure/142706/chiiki_bosai_kekka_20220104.pdf 最終閲覧日 2022 年 3 月 8 日

これら自治体の指針類は数多く策定されており、またしばしば長文でもあって、ふだんの生活のなかで目にすることはほとんどないと思います。また、事務局でも各自治体の地域防災計画の

内容を把握できているわけではありません。ただ、資料保全活動が行政の現場との連携を進めていくうえで、倉敷市が今回追加した文言がよりどころとなる場合もあるかと思います。お住まいの自治体の計画はいかがでしょうか。意見募集などは広報にも掲載されると思いますので、ご覧いただけたらと思います。

3. マルセン文化賞受賞

2022年1月（公財）マルセンスポーツ・文化振興財団（岡山市）から、スポーツや文化の発展に貢献した岡山県ゆかりの個人・団体をたたえる「マルセン文化賞」を受賞しました。みなさまのご支援に改めてお礼申し上げます。

4. 全国史料ネット研究交流集会でのポスター発表

2022年2月19日・20日に第8回全国史料ネッ

ト研究交流集会・山陰が開催されました。鳥根県内でも新型コロナウイルス感染症が急拡大していた時期にあたったため、開催形態が直前にオンライン形式に変更となったものの、全国から約180名が参加しました。初日のシンポジウムでは岡山から定兼学さんが報告されました。当会も活動状況についてのポスター発表を行いました。本号に参加記を掲載していますので、ご覧ください。

（文責・松岡弘之）



マルセン文化賞授賞式（2022年1月11日）

活動参加記

修復活動参加記

蛭田 咲輝

私は地方文書を用いた研究を進める中で地域史料のレスキュー活動に関心を持ち、西日本豪雨で被災した史料の修復活動に、12月1日に初めて参加しました。今回は腐敗を防ぐために冷凍された史料を解凍して開いたのち、セスキ炭酸ソーダ水溶液に浸してブラッシング洗浄する作業を行いました。史料を開く工程では、張り付いた史料を一枚一枚はがしていく際、破いてしまわないかと思いながら慎重に作業を進めました。こうした地道な活動により史料保存が行われ、貴重な地域史料を後世に伝えられる、またそれが地域の歴史を明らかにする一翼を担っているのだと実感しました。

その一方で、一点あたりにかかる作業時間が想像以上に長いとも感じました。日本が災害大国である以上、今後も被災史料の数は増加していくと考えられます。作業が追い付かなくなると、本来保存されるはずだった史料を守ることができなくなる恐れもあります。私自身、大学で日本史を学んでいなければ、史料保存活動の意義、またそもそもこの活動が行われていること自体知らなかったでしょう。より活動が認知されれば保存作業も進み、より多くの史料をレスキューできるのではないかと感じました。私は3月末で岡山からは離れますが、新天地でも史料保存活動の一端を担っていければと思います。

2022年2月19・20日、第8回全国史料ネット研究交流集会が開催されました。今回特に印象的だったのは、集会全体を通じて自治体の取り組みについて多くの時間が割かれたことです。例えば、山陰史料ネットの小林准士報告では、島根・鳥取両県における文化財保存活用大綱や文化財保存活用地域計画などの策定状況が紹介され、これらは活用を重視する傾向にあるが、調査、保存体制についても整備が求められている点は重要、と指摘されました。枠組みを上手に使うことで自治体による様々な資料保全活動が可能となるようです。

いくつかの県の文化財保存活用大綱で史料ネットについて言及がなされていることは史料ネットと文化財行政との連携の深まりを感じさせるものです。ただ質疑の中で危惧するコメントがあったような、資料保全活動が史料ネットへの丸投げとなる事態を防ぐためにも、互いの短所を補い合うよりよいパートナーとしての関係構築がこれからの課題です。

組織間の関係構築とともに、奥村弘氏があいさつで述べたような個人間の関係構築に基づき、できることを積み重ねることも欠かせません。その点、広島での文書館文書調査員による民間資料の所在確認や新聞記者からの情報による資料レスキュー、長野での博物館ボランティアによる被災資料の処置といった実践は、当事者意識を持つ幅広い関係者との連携がなされており、大いに参考になるものでした。

レスキュー史料から（2）

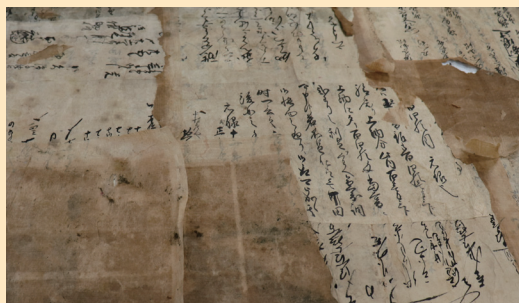


【写真1】富岡家屏風絵

平成30年7月豪雨の際に、倉敷市真備町の富岡家から屏風がレスキューされました。この屏風は幕末に岡田藩士が描いた花鳥図【写真1】で、被災したものの、関係者の尽力で修復を無事終えることが

できました。この屏風には下張りとして、古い和紙がたくさん貼られていました。ほとんどが古い文書を再利用したもので、この屏風には約460点【写真2】もありました。一見不用品と思われるかもしれませんが、実はこの1点1点の下張り文書から、昔の真備町の様子をうかがうことができるのです。

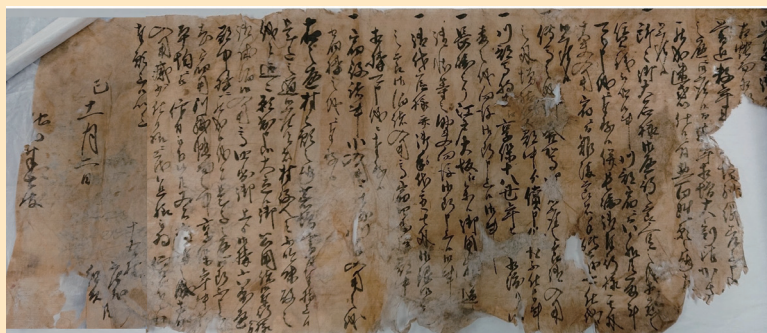
今回はその中から、江戸時代の川辺宿に関する資料【写真3】を紹介します。古くから真備町内には山陽道が通り、大名から一般の庶民まで、多くの旅人が往来していました。真備ふるさと歴史館にある絵図はその繁栄ぶりを伝えてくれます。しかし一方で、宿とその周辺の村々は伝馬役、助郷役という税を課せられ、往来を通行する幕府の役人や大名に、馬や人手を無償で提供しなければならませんでした。それらの負担に耐えかねた岡田藩の十五ヶ村が共同で6ヶ条の要求をしました。①大名通行の費



【写真2】はがす前の下張り（一部）

用は川部（川辺）宿で負担する、ただし長崎奉行の通行で、宿だけでは負担できない時は手伝う、②享保18年（1733年）以降渡していた川部の馬持ちへの麦の提供を中止する、③長崎から江戸や大坂宛の幕府の公文書などを送るための人手を出さないなど、当時の負担内容がくわしく分かります。象やオランダ人も通行した山陽道ですが、その華やかさのうらで大きな代償をはらっていました。

さて、この下張り文書に記された要求が実現したのか、残念ながら結果は分かりません。これに関連する文書も今のところ出てきていません。川辺の本陣をつとめていた難波家は、明治26年（1893年）の水害にあい、資料がほとんど残っておらず、川辺宿についてはまだ分かっていないことが多くあります。今後の研究を待ちたいところです。これらの下張り文書は、形を変えながらも度重なる災害を乗り越えて受け継がれてきました。今後も私たちに江戸時代の真備に生きた人々の思いを語りかけてくれる資料のひとつになるでしょう。（山下香織）



【写真3】川辺宿に関する下張り文書

歴史資料保全活動への支援募金のお願い

被災状況の調査や、被災資料のレスキュー、クリーニング作業など、活動継続のための資金が必要です。募金にご協力いただける方は、下記口座にお振り込みいただければありがたく存じます。

ゆうちょ銀行総合口座（普通口座）

【記号】15470 【番号】38569531 岡山史料ネット（オカヤマシリョウネット）

（他の金融機関からの振込の場合）

【店名】五四八 【店番】548 【預金種目】普通預金 【口座番号】38569531

2021年3月から2022年2月までにご寄付をいただいたみなさまは以下のとおりです。記して厚く御礼申し上げます。

西尾和美・村上岳・渡部祐子（五十音順、敬称略）

事務局 〒700-8530 岡山市北区津島中 3-1-1 岡山大学文学部日本史研究室内

電話 086-251-7442

e-mail okayamasiryonet@gmail.com

URL <http://okayamasiryonet.s1008.xrea.com/>

Twitter @okayamasiryonet